

Press Release



8. 6. 9
南予地方局

麻痺（まひ）性貝毒の発生について

- 1 水産研究センターが、愛南南部地区において6月5日実施したモニタリングで貝毒原因プランクトンの「ギムノディニウム・カテナータム」が危険濃度を超えたため、同地区の二枚貝の採取の自粛を要請するとともに、採取した二枚貝（マガキ）の貝毒検査をした結果、本日（6/9）、厚生労働省の定める規制値（4マウスユニット/g）を超える5.9マウスユニット/gの麻痺性貝毒の検出が確認されました。
- 2 このため、南予地方局では直ちに、愛南町南部地区を規制区域に指定し、「二枚貝の採取や自家消費をしないよう」立看板を設置して注意喚起しました。
なお、現在、マガキを養殖している御荘湾はプランクトン濃度が危険濃度を超えておらず、出荷を制限する状況にはありません。
- 3 県としては、今後も水産研究センターによるプランクトン調査を実施するとともに、愛南町及び関係漁協との連携を密にして、迅速な情報提供に努めることとしています。

※この毒は二枚貝特有のものであり、アワビやサザエ等の巻貝や魚類、エビ、タコ、イカ、海藻類等は毒化しないので、食用にしても安全です。

○お問い合わせ先

南予地方局農林水産振興部愛南水産課

担当者：課長 黒野憲之

TEL 0895-72-1322

貝毒プランクトン調査地点、看板設置箇所及び規制区域



貝毒プランクトン濃度と貝毒検査の結果

| | | ① | ② | ③ | ④ |
|------|------------|-------|-------|-------|-------|
| 6月5日 | 濃度(細胞/ml) | 0.061 | 0.061 | 0.320 | 0.098 |
| | 貝毒検査(MU/g) | — | — | 5.9 | — |

※危険濃度:0.1 細胞/ml、規制値:4.0MU(マウスユニット)/g

近年の愛媛県における麻痺性貝毒による出荷規制事例

| 発生年度 | 発生日 | 終息日 | 継続期間(日) | 発生場所 | 発生プランクトン種 | 最高貝毒量(MU/g) | 最高細胞数(細胞/ml) | 毒化貝種類 | 出荷規制日 | 解除日 | 継続期間(日) |
|------|--------|-------|---------|------|-------------------|-------------|--------------|-------|-----------|----------|---------|
| H19 | 5月19日 | 7月25日 | 68 | 岩松湾 | カテナータム | 8.5 | 407 | アサリ | H19.6.8 | H19.7.25 | 48 |
| H20 | 12月16日 | 5月18日 | 154 | 三瓶湾 | カテナータム | 4.9 | 1.21 | 天然マガキ | H20.12.24 | H21.5.18 | 146 |
| H22 | 6月14日 | 8月2日 | 50 | 岩松湾 | カテネラ | 18.9 | 2350 | アサリ | H22.6.18 | H22.8.2 | 46 |
| H26 | 5月1日 | 7月31日 | 92 | 愛南町 | カテナータム | 6.6 | 1.07 | ヒオウギ | H26.5.1 | H26.7.31 | 92 |
| H28 | 4月11日 | 7月26日 | 107 | 愛南町 | カテナータム | 5.8 | 0.44 | 天然二枚貝 | H28.4.14 | H28.7.26 | 104 |
| H29 | 5月9日 | 8月2日 | 86 | 愛南町 | カテナータム | 5.2 | 10.40 | 天然二枚貝 | H29.5.25 | H29.8.2 | 70 |
| H31 | 4月5日 | 9月19日 | 168 | 愛南町 | カテナータム/カテネラ | 140 | 8 | 天然二枚貝 | H31.4.14 | R1.9.19 | 159 |
| R2 | 3月16日 | 9月19日 | 188 | 愛南町 | カテナータム | 38 | 0.93 | ヒオウギ他 | R2.3.18 | R2.9.19 | 186 |
| R3 | 4月27日 | 6月11日 | 46 | 吉田湾 | パシフィックム(旧カテネラ) | 46 | - | 天然マガキ | R3.4.27 | R3.6.11 | 46 |
| R3 | 5月25日 | 7月26日 | 63 | 愛南町 | カテナータム | 9.2 | 0.25 | 天然マガキ | R3.5.25 | R3.7.26 | 63 |
| R6 | 4月24日 | 8月19日 | 118 | 岩松湾 | カテナータム | 4.2 | 0.17 | 天然マガキ | R6.4.26 | R6.8.19 | 116 |
| R7 | 3月4日 | 7月24日 | 143 | 三浦地区 | アレキサンドリウム・パシフィックム | 150 | 8300 | 天然マガキ | R7.3.7 | R7.7.24 | 140 |
| R7 | 6月3日 | 7月24日 | 52 | 三瓶地区 | アレキサンドリウム・パシフィックム | 15 | 630 | 天然マガキ | R7.6.5 | R7.7.24 | 50 |
| R7 | 1月15日 | 2月19日 | 36 | 御荘湾 | カテナータム | 4.8 | 0.141 | 養殖マガキ | 1月28日 | 2月19日 | 23 |
| R8 | 4月20日 | | | 北灘湾 | カテナータム | 7.7 | 1.820 | 天然マガキ | 4月30日 | | |
| R8 | 5月11日 | | | 下波地区 | カテナータム | 7.0 | 21 | 天然マガキ | 6月3日 | | |

麻痺性貝毒プランクトンについて



ギムノディニウム・カテナータム8連鎖体

形態の特徴

渦鞭毛藻の一種で、単独遊泳状態の細胞は伸長した卵型で、長さ48~65 μm 、幅30~43 μm で、横溝が深くて幾分上方に位置する。本種はしばしば長い連鎖群体を形成し蛇のようにクネクネと泳ぐ。

生態的特徴

出現時の水温は10~27 $^{\circ}\text{C}$ 、塩分は26~35psuで、特徴的なシスト（植物でいう“タネ”のこと）を形成し、発芽して海水中を漂う。このシストは直径約50 μm の球形で表面には微細な網目模様があり、海泥中に眠っている。

特記事項

二枚貝類の麻痺性貝毒原因種。発生密度が0.01cells/ml程度で二枚貝が毒化する恐れがあり、**0.1cells/mlで毒化の危険が高まる。**

麻痺性貝毒について

- 毒 値 : 単位はMU（マウスユニット）
（1MUとは、体重20gのマウスが15分で死ぬ毒量）
- 規制値 : 4MU/gが食用の貝肉としての基準値
（昭和55年7月1日環乳第9号厚生省環境衛生局長通知「麻痺性貝毒等により毒化した貝類の取り扱いについて」）
- 致死量 : ヒトの致死量は、3,000MUと言われている。
- 症 状 : 食後30分程で口唇、顔面のしびれ、痛みを発生し、続いて四肢の麻痺が起こり、重症の場合は、呼吸麻痺により死亡する。
- 参 考 : 規制の解除については、貝毒の検査結果が3回連続して規制値を下回らなければならない。